

LPG NEWS

えっとぶり

発行 社団法人 徳島県エルピーガス協会

編集 えっとぶり情報委員会

〒771-0134 徳島市川内町平石住吉209-5
徳島健康科学総合センター4階

代表 TEL 088-665-7705

FAX 088-665-6905

URL <http://www.tokushimalpg.or.jp>

社団法人 徳島県エルピーガス協会

会長 中岸雅夫

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。新年明けましておめでとございませう。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は東日本大震災があり、改めて地震の怖さを再認識させられた年であったと思えます。特に津波の脅威を目の当たりにし、本県でも東南海、南海地震の発生が危惧されているだけに、対岸の災害ではなく会員の皆さんも何か期するところがあつたのではないかと思われます。

私自身も被災地視察を行い、東北の方々から直接お話を伺うなど情報収集に努め、本県の災害発生時にどう生かせるか、また現状での問題点を洗い出してまいりました。十二月には正副会長並びに各部会長で構成する災害対策検討会議を開催し、現在各部会で議論が始まっているところであります。本年前半には協会の現行「LPGガス災害対策計画」に反映できると考えております。とは

いうものの災害対策計画は発災後の対応を協会としてまとめたものであり、減災の観点から言え

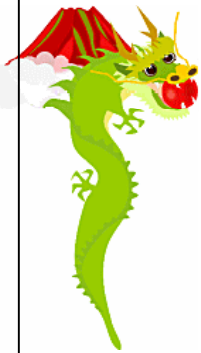
ばガス放出防止型高圧のホースの設置が有効であると考へます。昨年九月末の報告では54.7%の設置率となつており、この数値は昨年三月末から4ポイントしか伸びておらず、今一度会員の皆様には設置促進を急いで欲しいと思ひます。

事業面から見れば、都市ガス、電気等のエネルギー間競争、とりわけ電化との競合が課題となるわけですが、震災以後一時的に資材調達難等の理由で電化攻勢は鈍つていたものの、その勢いはさほど衰えていません。いづれにしても競合エネルギー対策には顧客接点強化を図る事が我々の有効な手段となります。協会では二月二十四日に県と「高齢者等の見守り活動に関する協定」を締結

します。これは会員の皆さんが業務接点を活用し、高齢者並びに独居老人のいるご家庭を把握した上で訪問時に必ず一声掛け、安否確認等をするという内容です。県下販売事業者に従事する人すべてで高齢者等を見守っていきたいと思ひます。最後に、昨年まで議論を重ねてまいりました

が、いよいよ(予定では四月一日より)当協会も一般社団法人へ移行する運びとなっております。

新しい制度の下、これまでの慣習等が一部通用しなくなることもありますが、新生「一般社団法人徳島県エルピーガス協会」として船出してまいります。これまで以上のご理解並びにご協力をお願い申し上げます。



第5回 理事会

(監事・支部長合同)

一月二十三日(月)に理事・監事・支部長合同会議を開催しました。

▽議案審議

- ・第1号議案 脱会届(2件)の承認について
- ・第2号議案 平成二十四年度事業計画策定方針について

- ・第3号議案 総会運営規程(新設)について
- ・第4号議案 理事会運営規程(新設)について

- ・第5号議案 情報公開規程(新設)について
- 一般社団法人移行後に適用する新設の規程3件を含め、5議案が承認されました。

▽報告事項

- ①第4四半期行事予定 ②平成二十四年度講習・検定計画(日程表) ③ガスコラボ四国2011収支見通しの概要を報告するとともに、オール電化対策として協会が取り組んでいるLPGガスPRチラシ第5弾「ガスでできる我が家の節電」の活用を合同会議出席者に依頼しました。

チラシ第5弾については、電力会社が原子力発電所の操業率低下により発電量が大幅に低下した結果、節電要請せざるを得ない状況を抱えながらも、原発事故以前と同様にオール電化を推進しようとしていることの不合理性を訴えるとともに、エネルギーのベストミックスの観点等からエルピーガス機器の活用を訴えるものです。協会販売価格1部 十一円の有償チラシですが、会員各位の積極的な利用、消費者へのPRをお願いします。

平成二十三年度 四国地方高圧ガス保安大会 保安院長表彰 高 正明氏 受賞

高 正明保安部会委員(宮崎商事株式会社・保安管理部課長)が、平成二十三年度四国地方高圧ガス保安大会において優良業務主任者の部で原子力安全・保安院長表彰を受賞



氏は、的にすすめ自主保安の向上に貢献三十五 されました。更に、当協会事業にお年にも技術普及講習会の講師、設備たり高 士講習のトレーナー、高圧ガス保安圧ガス 法関係国家試験の試験監督員等事業に 長年にわたり担当して頂くなど協

携わっており、この間、昭和六十二年から平成二十年まで所属事業所の業務主任者として保安業務規程の改定、保安管理組織の整備、保安教育実施計画の作成・社内業務主任者研修会講師、顧客管理保安台帳の電算処理システムの導入等を積極

「徳島県における 高齢者等の見守り活動に関する協定」を締結

ひとり暮らし高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、LPガスの供給を通じ高齢者等と接触機会があるLPガス業界として、高齢者等の見守り活動に協力することを目的に、平成二十四年一月二十四日徳島県

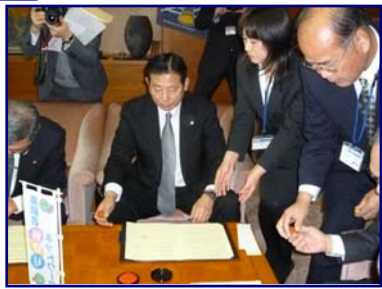


が「見守り協力員」という立場で、検針業務や容器交換業務等の日常

「一般社団法人移行認可申請」 県審議会で認可基準適合の答申

公益法人制度改革への対応として、昨年の十月二十六日に臨時総会を開催し、当協会の法人形態として新制度に基づく「一般社団法人」に移行することを決議するとともに、併せて新法に適合する新しい定款を特別決議しました。その後、昨年の十一月十一日に開催された臨時理事会において移行認可申請書類を承認し、同日付で徳島県知事(一般社団法人への移行の認可を行う行政庁)に申請しました。

徳島県公益認定等審議会において一月十六日及び一月二十三日の両日審査された結果、認可基準に適合する(整備法第117条 定款の内容が法に適合、公益目的支出計画が適正)と認めるのが相当と答申されました。今後、この答申を踏まえた徳島県知事の認可の処分通知を受け、一般社団法人の設立の登記が完了すると、新しい定款が施行になり、新法人として再スタートすることになります。(四月一日を目途としております。)



業務を行うに際し、ひとり暮らし高齢者等に何らかの異変を察知したときは、速やかに市町村や市町村の地域包括支援センター又は警察に連絡・通報する等により市町村が取り組んでいる高齢者等の見守り支援に協力するものです。



報告

オール電化対策として四国内4県のエルピーガス協会と四国ガスが協調して実施しているガスコラボキャンペーン(5年目)の結果について報告します。

キャンペーンには当協会会員事

業所78を含み四国内のLPガス・都市ガス取扱販売店428事業所が参加しました。キャンペーン応募者がき販売枚数は合計93,920枚で、この販売額から推計したガス機器販売額は7億円と見込んでおります。このうち当協会販売店78への応募はがき販売枚数は20,450枚で、これからガス機器販売額は約1億5千万円と推計しております。

キャンペーン参加事業所数や応募はがきの販売額をもとにした本県協会への景品の配分本数については、1等「現金1万円」が64本、2等「食用油」が86本、3等「千円のスーパー商品券」が429本です。抽選は、当協会役員により業界紙記者等の立ち会いのもと一月二十三日に徳島市内の会場で実施されました。当選者への景品の配達は、関係販売店が担当することになります。この度のガス機器購入やこれまでのLPガス取引のお礼とともに、当選のお慶びを伝えて下さい。よろしくお願います。



LPガス燃料車 (オートガス車) 紹介

「1販売店1台運動」

LPガスが自動車用燃料として昭和三十年頃からタクシー車両(写真参照)に使用され始めて約五十年の歴史があります。

LPガス燃料の特徴は、燃料コストが非常に安い、地球環境にやさしい、NO_x(窒素酸化物)の排出量はディーゼルに比べて80%削減、CO₂(二酸化炭素)排出量はガソリンに比べて12%の削減効果があります。

現在、全国各地で軽自動車から中型トラック、商業車、乗用車、フォークリフトなど、ありとあらゆる自動車にLPガス燃料

は利用されています。最近では、ガソリンとLPガスの併用車両、ハイブリット車のLPガス改造車などが登場しています。

この度、LPガス業界全体でLPガス燃料車の普及促進を目的とした「LPガス1販売店1台運動」(平成二十二年〜平成二十四年までの三年間)を展開しており、今年が同運動の最終年度となっております。

この機会に社用車または自家用車としてLPG車の購入を検討してみたいかがでしょうか。

副会長 宮崎一成(製造部会担当)

昭和37年頃のLPG改造車



(提供) LPG内燃機関工業会

平成二十三年 廃ガスメーター回収事業 報告

昨年十二月十三日/十四日の二日間に亘り、会員様に保管いただいております廃ガスメーターの回収を行いました。その結果、メーター台数 1,366台、総重量 4,049kg、総額 191,578円の収益を得ることができました。前回の回収事業(平成十八年)に比べると、非鉄金属価格の下落により買収単価が半値になったため金額は減りましたが、メーター台数・重量とも前を上回りました。

ご協力いただきました会員様には深く感謝申し上げます。えっとぶり秋号で既報のように、収益金は「とくしま協働の森づくり事業」への協力金に充て、有効に活用させていただきます。ありがとうございます。ごさいま

副会長・青年部会長 石川 雅史



「節電」の行方は?

一月十三日、四国電力伊方原発が全停止をいたしました。翌十四日の徳島新聞に、四国電力からみなさまへ「省エネルギー・節電へのご協力をお願いします。」との広告がありました。昨年十二月八日、当協会は36社の有志事業者のご協力をいただき、徳島新聞へ一面広告「ガスでできる節電」を実施いたしました。電力業界とガス業界とがともに「節電」の願いをしています

が、両者の方向性は大きく違っているように思います。私たちガス業界の「節電」は、消費者のみなさまに暮らしの中でのエネルギーのベストな使い方の選択や電気の使用量を極力落とすための工夫を提案しています。では電力会社の「節電」のお願いには、どのような思惑があるのでしょうか。3・11事故後の対応や姿勢からして、やはり原発存続ありき原発再稼働までの「一時凌ぎ」のようにしか感じられませんか。昨年末、中岸会長から弊社社員に一冊の本『原発のうそ』(京都大学原子炉実験所 助教 小出裕章著 扶桑社出版)をお年玉にいただきました。福島の悲惨な現状が続く中、もう取り返しつかない人災を繰り返してはいけない「ノーモアフクシマ」と唱えるのは私だけでしょうか。みなさん、日本国民

のひとりとして専門家の、原発の恐怖の警告について先ず耳を傾けることが大切かと存じます。

今回、電化対策委員会では、徳島新聞への一面広告「ガスでできる節電」の内容を電化対策パンフレット第5弾「ガスでできる我が家の節電」として新たに作成いたしました。電力会社は国民に節電を求め一方で、オール電化推進を未だに止めないという相反した営業展開をしています。会員のみなさま、電化対策パンフレット等を活用して「ガスの良さ」を丁寧に説明してください。今こそ、消費者のみなさまに私たちの「提案」が理解され、ガスを選択していただける絶好のチャンスです。

泉 雅之(経済部会長)



電化対策パンフレット第5弾

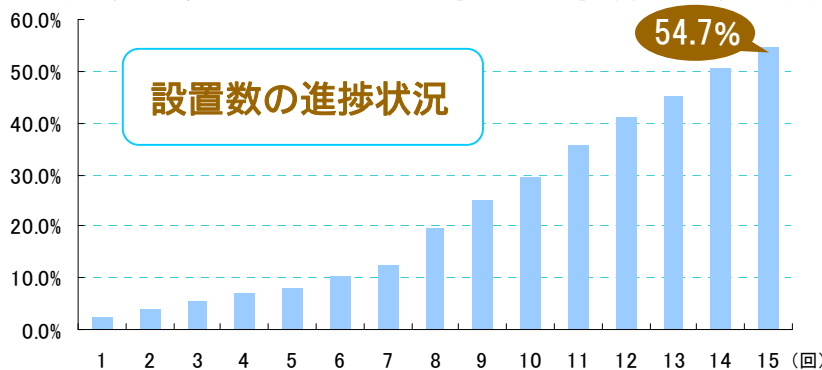
ガス放出防止型高圧ホース

設置状況報告

第15回 設置状況調査報告書【285販売店の報告】

平成23年 9月30日現在	設置箇所数	ガス放出防止型高圧ホース(ガス放出防止器)		
		設置数	未設置数	設置率
一般住宅	144,788	78,696	66,092	54.4%
	(151,015)	(76,196)	(74,819)	(50.5)
集合住宅	7,230	4,228	3,002	58.5%
	(7,045)	(3,722)	(3,323)	(52.8)
業務用施設	6,690	3,863	2,827	57.7%
	(6,641)	(2,915)	(3,726)	(54.2)
合計	158,708	86,787	71,921	54.7%
	(164,798)	(83,572)	(81,226)	(50.7)

※()の数字は第14回、平成23年3月末[291販売店]に調査した数字です。



第15回ガス放出防止型高圧ホースの設置率は54.7%で、前回調査(平成23年3月31日)からわずか4.0%(3,215箇所)の上昇に止まりました。平成23年度の設置率目標は70.0%となっていますので、災害が発生した場合の二次災害防止のためにも高圧ホースの交換時には放出防止型への交換をお願いいたします。

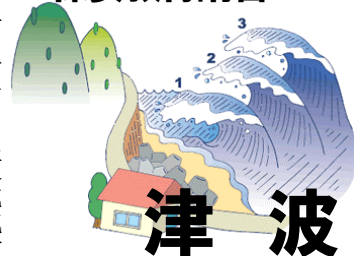
平成二十四年度 事業計画策定方針について

平成二十四年度事業計画策定方針は、一月二十三日(月)ホテルグランドパレス徳島で開催された理事会にて承認されました。

その内容については、「えっとぶり冬号 別紙版」を参照ください。

神原寛(総務部会長)

平成23年度 保安教育講習



津波

南部から徳島市・鳴門市にかけて津波の高さが約二倍以上に訂正されました。

津波のことが書きましたが、忘れてはならないのが地震です。津波の前には非常に長い「長周期動」と言われる横揺れが来ます。横揺れはわかっている人間は動けなから五分程度続くと思われ、多ければ震度7の揺れが四分かつ、津波にはほとんど無力です。私たちがLPガス販売店は、災害が起こってからどうするかではなく起こる前に「減災」

昨年三月十一日に東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生し、そのあと想像を絶する大津波が沿岸を襲いました。徳島県でも美波町由岐で実際に観測された十一日二十時二十八分に1.15メートルが最高でした。三月十六日の調査では福井町湊で2.80メートルの高さまで波が上がったのではなからうかと推定されています。東北では最大の津波は40メートルを超えたと言われます。40メートルと言えば、十三階建てビルを飲み込むほどの高さです。この地震と津波を目の当たりにして、四国沖で確実に来るだろうと思われる南海地震と東南海地震、そして東海地震の三連動というとてもない大地震で同じような津波が発生すると想定されて、県南部から徳島市・鳴門市にかけて津波の高さが約二倍以上に訂正されました。

津波のことばかり書きましたが、忘れてはならないのが地震です。津波の前には非常に長い「長周期動」と言われる横揺れが来ます。横揺れはわかっている人間は動けなから五分程度続くと思われ、多ければ震度7の揺れが四分かつ、津波にはほとんど無力です。私たちがLPガス販売店は、災害が起こってからどうするかではなく起こる前に「減災」

落下して逃げ惑う私たちが襲うでしよう。そして、埋め立て地等では液化化が始まり避難しようとする車を立ち往生させるかも知れません。また、内陸部では地割れやがけ崩れなど今までに無い災害が想定されています。

LPガス販売に従事するわれわれは何としてもLPガスによる二次災害を防ぐ必要があります。ガス放出防止器は、LPガスを高圧部分で遮断する最も有効な器具だと思われ、揺れて容器が倒れたり、津波で容器が引っ張られたりすると遮断するようになってきます。三月十一日の津波の報道でも生ガスを吹いて回転しながら流れていく容器が映

最後に、皆さんには是非無事で避難してください。被災後にはたくさんのお仕事があります。その作業を確実にこなすためにも怪我をしたのでは駄目なのです。

野口久司(保安部会長)

